

IDS

22390 U.S. PTO
10/761207



JP-A-H2-285424 discloses in Claim 1:

A manner of outputting an unnecessary file name in a compiler that generates an object program by compiling a source program, the manner comprising:

cross reference outputting processing unit for outputting a cross reference list including a declaration information item and a row number of the source program,

wherein the declaration information item including a declaration name that is declared on the source program and information relating to the declaration name, and

wherein in the row number of the source program the declaration name is declared and referred to;

unnecessary name outputting means provided in the cross reference outputting processing unit for outputting, to an unnecessary file name file, an unnecessary file name by extracting the unnecessary file name that is declared but not referred to from the source program.

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑩日本國特許庁(JP) ⑪特許出願公開
⑫公開特許公報(A) 平2-285424

⑩Int. Cl.
G 06 F 9/45

8724-5B G 06 F 9/44 3 2 2 D

審査請求 未解決 請求項の数 3 (全5頁)

④発明の名称
コンパイラの不要名標出力方式および不要名標削除方式

④特 題 平 1-105995

②出版 昭和 1 (1989) 4 月 27 日

明 野 田 雄 三 日本電気株式会社内
東京都港区芝5丁目33番1号

⑩出 願 人 日 本 電 氣 株 式 會 社 東 京 都 港 区 芝 5 丁 目 7 番 1 号

⑭代理人 井理士、河原一純

レンスリストを出力することとを特段とする第1項
 2項のコンパイラの不変名国産力方式。

田 ソースプログラムをコンパイルしてオブジ

エロトロダラムを生成するコンパイルにおいて、

ソースブロットラムから不揮発性を抽出した不揮

全「フーイムを無効！アソコでプロダクトに合致

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

スノロケやエカボなど、さまざまなスポーツが楽しめる。また、自然の美しさも堪能できる。ぜひ、この機会に、大井町を満喫してほしい。

州府縣各屬

力。

3. 兎野の津波と鼠野

(産業上の用分)

本発明はコンパイラの処理方式に関し、特にソ

—スプログラムの不要名退出方式および不要名

は創設方式に関する。

(陸奥の復興)

従来のコンピュータでは、処理の一部としてソー

サブプログラム上で宣言されている名目（以下、重

富名(と)と云ふ)と富名(と)の種々の情報とソース

プロダラム上で宣言名団が宣言および他國されて

時間 2-265424 (2)

理がクロスリフレックスリスト上に集れ、必要ない情報と不必要な情報とが混在して出力されるため、このようにクロスプロダクトの保守効率が低下するという欠点がある。

また、従来のコンパニイラでは、コンパニイラ型
四年連続に使用しないやうな仕組みを社会プロテ
クトに多く見られる。近頃では参院のコンパニ
イラ型コンパニイラ型としたためにはコンパニ
イラ型のコンパニイラ型「ス」で「ム」上「制」に記
近しなければならなかった。また、コンパニイ
ラ型のコンパニイラ型「ス」で「ム」上「制」に記
近しなければならなかった。また、コンパニイ
ラ型のコンパニイラ型「ス」で「ム」上「制」に記

本発明の目的は、上述の如く、ソースプロ
グラム中の不要な部分を不変な出力形式に
出力するとともに、不要な部分以外の重要部につ
いてのみクロスリファレンスリストを出力するよ
うにしたコンパイラの不要な出力方式を排除す
ることにある。

クトプロダムを生成するコンパイラにおいて、ソースプログラムから不要項を抽出した不要項ファイルを参照してソースプログラムに含まれる不要項をコンパイル対象としないようにソースプログラムから削除する不要項削除手段を有する。

[illegible]

また、本発明のコンパイルの不変名識別方法では、不変名識別手段がソースプログラムから不変名を抽出した不変名マッピングを参照して、ソースプログラムに含まれる不変名をコンパイル

いる行番号をクロスリファレンスリストとして出力することができるようになっていたが、ソースプログラム中での宣言名等の参照の有無によらずにすべての宣言名についてクロスリファレンスリストを出力するようになっていた。

[illegible]

(後野村解説しようとする問題)

上述した従来のコンパイルでは、コンパイル時
に既に装置に出力するようないかなる装置プロ
グラム内にある装置でコンパイルにおいて参照さ
れない変数を消去するものでも、その変数を消去し
ておいた上で、一般に多い共通のコードを使
用しコンパイル時間が多くなる場合に参照しない
変数を消去するものでも、その変数を消去する
ものでも、その変数を消去するものでも、その

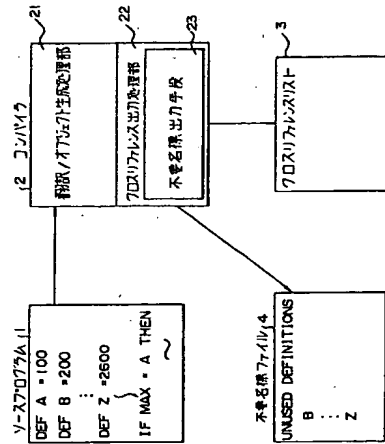
また、本発明の他の目的は、ソースプログラム中の不変な値を出したくない不変な値ファイルを使用することにより、不変な値をソースプログラムのコンパイル対象から外してコンパイル値を向上させるようにしたコンパイラの不変な値解決方式を適用することにある。

[illegible]

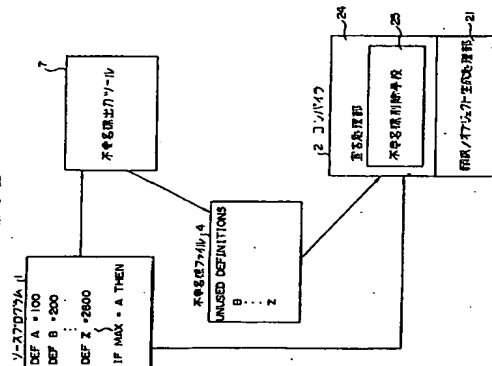
(5)

特開平2-285424 (5)

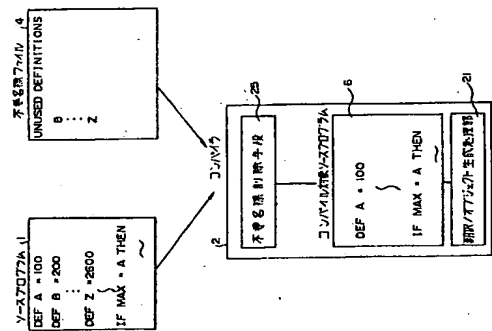
第 1 図



第 3 図



第 4 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)